

再評価個票

事業名	一級淀川水系 檜尾川 通常砂防事業			事業主体	大阪府
所在地	高槻市 原				
再評価理由	②事業採択後、10年間経過した時点で継続中 採択：S63年度				
事業概要	目的	山腹崩壊や溪岸浸食により流出する土砂が下流河川に堆積し洪水を引き起こすことを防止するとともに、溪流直下の保全対象に対する土石流災害を防止する。			
	内容	砂防ダム工 1基（ダム高H=11.5m、ダム幅W=78.4m）			
		流域面積 A=1.19km ² （ダム地点） 流出土砂量 V=63,498m ³			
	上位計画	_____			
関連事業	一級淀川水系 檜尾川 河川改修事業				
事業の進捗状況等	経過	事業採択年度：S63	用地着手年度：H元	工事着手年度：—	完成予定年度：H15
	進捗状況	全体事業費 6.5億円 [内、用地費] [4.2億円]		投資事業費 3.1億円（進捗率48%） [内、用地費] [2.8億円]（進捗率67%）	
		[内、工事費] [2.0億円]		[内、工事費] [—億円]（進捗率0%）	
	[内、その他] [0.3億円]		[内、その他] [0.3億円]（進捗率100%）		平成10年度末 用地 14,680m ² 取得（全体 24,171m ² ） 買収率 60%
一連の整備効果発現	下流河川への有害土砂流出を防止するとともに土石流を未然に防止し、下流の保全対象の安全を確保する。				
課題	_____				
事業概要図					

事業を巡る社会情勢等の変化	事業目的	災害発生時の影響（想定氾濫区域内）	①人家戸数 132戸 ②耕地面積 20 ha
	状況	③公共施設 道路 1,180 m ④災害弱者関連施設 なし ⑤その他 なし	
		過去の災害実績	①被害実績 S28年、S42年、S47年（7月、9月） ②被害戸数 なし
	災害発生の危険度	③耕地被害額（S47.7）農業用施設 5,909千円、（S47.9）農業用施設 1,006千円 ④公共施設被害額（S42.7）河川構造物 5,355千円、道路・橋梁 3,829千円、（S47.7）道路・橋梁 5,732千円 ⑤災害弱者関連施設 なし ⑥その他 なし	
①現況の整備状況 治山ダム 4基 整備率 20.4% ②下流が天井河川であり土砂流出の多い流域であるため、有害土砂の流出により河道を埋塞させ河川の氾濫を引き起こす事が予想される。			
地域の状況	①地域開発の状況	氾濫区域内に宅地開発が進行している。	
	②地域の協力体制	防災事業として認識されており、事業に対する協力を頂いている。	
	③関連事業との整合性の変化	_____	
	④その他	事業着手から用地買収交渉を重ねてきたが一部地権者と買収単価について折り合いが着かず、現在は買収率が60%に留まっている。 しかし用地買収に単価面で難色を示していた地権者が最近になり交渉に応じはじめてきたため、未買収地が買収可能となってきた。	
事業効果	別紙－1 参照		
その他特記事項	天井河川である檜尾川に対して地元住民は洪水発生への不安を抱いている。そのため檜尾川に対する地元住民の改修要望は強く、昭和60年に高槻市及び地元自治会より本河川の治水対策の要望書が提出されている。 平成10年度の再評価委員会の審議結果は「継続審議」。現在実施している周知活動後に、委員会の了承を得て事業を進捗させる。		

事業効果

檜尾川砂防ダム

事業名	大項目 (事業共通)	小項目	効果の指標等	具体的な効果等 (地域の状況等)	受益者
砂防事業	費用便益分析				
	安全・安心	○土砂災害による被害の軽減 ・人命、財産	○費用便益比 ○要因の変化	○B / C = 1.9 (事業効果費〔想定氾濫区域内施設の保全〕B = 1,216百万円) (全体事業費〔砂防ダム1基、流路上370m〕C = 650百万円) (想定被害額は、治水経済調査要綱等に基づき、人命、一般資産、農産物、営業停止損失、公共土木施設等について算定) ○保全人家戸数 (昭和63年度) 128戸 ⇨ (平成10年度) 132戸	想定氾濫区域内住民
	定性的評価等				
	安全・安心	○土砂災害による被害の軽減	○想定氾濫区域内家屋等 ○想定氾濫区域内の重要な施設	○家屋数 約 132戸 ○農地 約 20ha ○主要施設：なし ○災害弱者施設：なし ○交通網、ライフライン等：府道伏見柳谷高槻線、市道	想定氾濫区域内住民 想定氾濫区域内住民、通行者等
	快適性 (生活環境)	○景観		○砂防ダム設置により、河床から約9mのコンクリート壁ができる。 ↓ ・砂防ダム周辺の樹木の保全、植栽等を行うので、年月が経過すれば植物が繁茂し周辺の森林景観と調和するため影響は少ないと考えられる。	周辺住民 ハイキング客等
環境 (自然環境)	○生態系への影響		○砂防ダム設置により、溪流の縦断的な連続性が途切れる。 ↓ ・砂防ダム計画位置の約300m上流には既設の治山ダムがあるため、魚類等の生息環境に大きな変化はないと考えられる。 (水生生物等については既存資料の収集を行っており、今後現地調査や対策について専門家の意見を聞き、その上で適切に対応していく。) 砂防ダムにより、溪床、溪岸の浸食が防止され、新たな山腹崩壊を防ぐ効果があるため、堆砂敷より上部の樹林を保全できる。	周辺住民 ハイキング客等	